

令和6年度 学力向上プラン

学校名 中央区立常盤小学校

学校の教育目標

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| ・上品で豊かな心と健康な身体をつくる | ・ 勤労を尊び喜んで自分のつとめを果たす |
| ・ 互いに尊敬し合い協力して平和な社会をきずく | |

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

- | |
|---|
| ・自ら主体的に考え計画的に行動ができ、思考力・判断力・表現力を、課題解決のための必要な力を身に付けさせる。 |
| ・国際教育（英語科、地域学習）の学習を通して、国際親善に貢献する態度を培い、伝統や文化を理解する心豊かな人間性を育む。 |
| ・マイスクールスポーツを充実させ、体力向上に努める。 |

令和6年度「学習力サポートテスト」や令和6年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<ul style="list-style-type: none">・言葉の学習における連用修飾語の用法、主語と述語の関係についての理解に課題がある。（4年：全国71.5%、校内64.2% 5年：目標58.2%、校内60.0%）・6年文章を書くことに課題がある。（目標53.8%、校内48.8%）・物語の内容を読み取ることに課題がある。（目標63.3%、区70.3%、校内66.7%）	<ul style="list-style-type: none">・主語と述語の関係や連体修飾語と連用修飾語の違いを理解できるよう具体例を出しての指導や適用問題の時間が不足している。・自分の考えや気持ちを文章に書く経験が少ない。・物語よりも歴史漫画のようなものを好む傾向があり、物語を読む経験が少ない。
算数・数学	<ul style="list-style-type: none">・5年いろいろな形の単元における平行四辺形の作図に課題がある。（目標50%、全国50.9%、校内48.8%）・4年小数の相対的な大きさの理解が不十分である。（全国70.3%、校内66.0%）・4年数直線上に示された分数を読み取ることに課題がある。（全国63.7%、校内56.6%）・6年データの活用領域で少し課題がある。（区57.9%、校内57.4%）・東京ベーシックドリル問題正答率が各学年とも低い数値になっている。（6年：62.4%、5年：75.6%、4年：62.6%、3年：65.2%、2年：70.1%）	<ul style="list-style-type: none">・用具の操作が苦手な児童が多く、作図が苦手な傾向がある。・小数や分数等端の数への親しみがなく、イメージを持つことが難しい児童が多い。・既習事項が定着していない児童が多く、繰り返しの学習が不足している。
社会	<ul style="list-style-type: none">・6年の自動車をつくる工業の問題に課題がある。（目標65.0%、校内58.9%）・5年のくらしを支える水の学習において、ダムの働きや仕組みの理解に課題がある。（全国50.9%、校内48.8%）・資料活用や必要な情報を正しく読み取る力や課題解決能力に課題がある。・地図にかかっている地図記号や土地の様子から市の様子を読み取ることに課題がある。	<ul style="list-style-type: none">・身近に感じられない内容について、興味・関心がもてない児童も多く、学習が定着しにくい。・資料や地図を活用する機会が少ない。

理科	<ul style="list-style-type: none"> 6年の人のたんじょうの問題に課題がある。(目標82.5%、校内68.6%) 5年ヒトの腕の筋肉の動きの理解(全国36.6%、校内24.4%)、水のすがたの理解(目標30%、校内24.4%)、水の温まり方(全国45%、校内36.6%)に課題がある。 4年1つの植物のからだのつくりから、別の植物のからだのつくりを推測することに課題がある。(全国20.5%、校内9.4%) 実験の結果から考えられることを表現することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な要因を結びつけたり、予想したりしながら考えることが、苦手である。 結果から考察する等自分の考えを表現する経験が不足している。
英語	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度の学力サポートテストの結果において、全国平均を上回っている。 「書く力」に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 書く時間の確保が不十分である。
体育・保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度体力調査の結果、6年男子の50m走、女子の上体起こしボール投げで全国平均を下回っている。 4、6年は柔軟性に課題がある。 基礎的な体力や持久力が乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の児童の運動経験や生活習慣等個人差も大きく影響している。 休み時間の運動量や体育の授業での運動量の確保が不十分である。

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	<ul style="list-style-type: none"> 「令和7年度学習力サポートテスト」の文章を書くことの校内平均正答率が目標値を上回る。 主語と述語の関係や連体修飾語と連用修飾語の違いの学習を文章内で見つけたときに行う。 図書の時間を週に1回行い、物語文の読書をする時間を確保する。
	算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> 数学的思考力・活用力を身に付けさせるために授業改善を行い、「令和7年度学習力サポートテスト」では、思考力・判断力・表現力の観点で区の平均正答率を上回る。 前年度までの学習を振り返り、東京ベーシックドリルの問題正答率が80%を上回る。
	社会	<ul style="list-style-type: none"> 「令和7年度学習力サポートテスト」の思考力・判断力・表現力の観点で区の平均正答率を上回る。 資料を読み取り、自分の考えをワークシートに記入したり、発表したり、児童自身の力で課題解決をしていく。
	理科	<ul style="list-style-type: none"> 事象の本質を捉え、自分の考えを深めることができる。 「令和7年度学習力サポートテスト」で区の平均正答率を上回る。
	英語	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に英語を活用しようとしている。 文字をなぞったり、書いたりすることができる。 「令和7年度学習力サポートテスト」ですべての領域において区の平均正答率を上回る。
	体育・保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの結果を受け、区の平均以下について検証を行い、指導計画を修正し、体力向上を図る。

② 授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思考力、判断力、表現力を育成するために、教科横断的視点から年間指導計画の見直しを行う。 ・ 基礎的・基本的な学力の定着を図るための指導計画及び単元構成を行うとともに朝の時間等を有効に活用する。 ・ 教員間で互いの授業観察を行い、授業の課題を把握し改善する。 ・ 若手教員の授業力が向上するよう OJT 研修を行う。 ・ 考える時間や意見交換の時間を確保し、個の考えを広げたり深めたりする。
③ 家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者会等で、タブレット端末の取り扱いや活用の仕方などを動画発信し、学校教育に理解と協力を求めていく。 ・ 個別対応が必要な児童には、ご家庭との協力体制を基にして目標を設定し、課題に取り組ませる。
④ 体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ マイスchoolスポーツなど、日常的に意識して取り組みながら、体力向上を図る。 ・ 場の工夫や指示を精選し、運動量の確保をする。 ・ 教材研究を丁寧に行い、児童が主体的に取り組めるように指導方法を工夫する。



【目標達成のための具体的な取組内容】

① 各教科	
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連体修飾語と連用修飾語の違いを理解できるように授業の中で具体例を出して指導する。 ・ 指示語や接続語に着目させるとともに、キーワードを見つけるなど、文章の内容をしっかりと捉えさせるようにする。 ・ 主語と述語の関係に関する内容の資料を配布し、復習ができるようにする。 ・ 「文章を書くことが楽しい」と思う児童を育成するために、引き続き文章を書かせる時間を設定し、文章を書くための基本的な力を系統立てて指導することができるように年間指導計画を立てる。 ・ 段落の役割の復習を行い、指定された段落数と長さで文章を書く練習を繰り返し行う。 ・ 物語の登場人物の心情の捉え方を確認し、文章を読んだ感想を共有する学習を取り入れる。
算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宿題やはげみなどの時間を用いて、作図の復習プリントに取り組ませる。図形に関する単元において、平行四辺形等の図形の特徴を都度確認する。 ・ 夏休みに小数や分数に関する内容の課題を提示して復習を促す。 ・ 与えられた情報を読み取り、規準量と割合から求めた比較量を比べる学習を取り入れる。また、それが正しいかを判断し、そのわけを説明できるようにする。 ・ 算数習熟度委員会を中心に、習熟度別の考え方や発表の仕方を全教員で確認し、それぞれの思考力・判断力・表現力を児童が身に付けられるようにする。 ・ 東京ベーシックドリルの診断テストの結果を分析し、個別に指導が必要な児童に繰り返し丁寧に指導を行う。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料集や動画などを活用しながら、視覚的に理解できるようにする。 ・ 資料を読み取るための視点や、自分の考えをまとめてワークシートに記入し、さらに考察を深めるための必要な手立てを指導する。 ・ 資料の活用には、ミライシードを活用し、地図やグラフ、必要な情報を読み取り、資料を活用する機会を多く設定する等、授業改善を行う。 ・ 地図帳を用いて土地の様子を考える学習を授業中に行う。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題→予想→実験→観察→結果→考察の授業の流れを全教員が徹底する。 ・ 写真や図、模型や映像資料を活用し、視覚的に捉えさせて理解を深めさせる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査では自然事象に関する項目に苦手意識がある児童が多い。宿泊行事や校外学習の中に、自然を観察する機会を設け、生命や自然に興味をもたせるとともに、理科の学習に生かせるようにする。 ・考察の視点を提示して、考えがかけられるようにする。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を活用し、試す場を設定する。 ・ALT と連携を行い、Quick Time に音声聞き取って、2～3文字の単語を書く活動を充実させる。 ・英語貯金として四線のノートに英単語や英文を書く活動を取り入れる。 ・引き続き、日常的に話す機会を取り入れ、コミュニケーションスキルの向上を図る。
体育・保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・準備運動や体づくり運動で柔軟性が高められる運動を取り入れる。 ・マイスクールスポーツや外部講師による授業を年間指導計画に設定し、1年を通して体力向上や基礎的な運動能力の向上ができるようにする。 ・外部指導者を活用した授業を行い、児童の意識を高める。

②授業改善

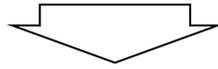
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な学力が確実に身に付くように個に応じた課題を設定し、個別指導を充実させる。 ・思考の順序が分かるように板書を工夫する。また課題解決型学習及び既習事項の活用を行い、児童が課題を的確に捉え、解決に向けた手段や、自ら計画を立てられるような授業を行う。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科、領域で、課題解決型学習及び既習事項の活用を行う。 ・授業の終わり、単元の終わりでは、学習の振り返りを確実にを行い、学習内容の系統性や繋がりを重視した授業計画を行う。 ・思考力・判断力・表現力を育成するために、各教科の特質をふまえた指導の工夫と、教科横断的視点から相互の関連付けを図り、指導体制を整える。

③家庭との連携

取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・学年、学級の学習の様子を、学年だより、学校公開、保護者会、個人面談、クラスルーム等の発信で知らせていく。個別に対応が必要な場合は、電話等で随時連絡をしていく。 ・タブレット端末の取り扱いや活用の仕方がまだ徹底することができていない。引き続き、保護者会や個人面談を通して学校教育に理解と協力を求めていく。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習については、その重要性について共通理解を図るとともに、家庭にも協力を求める。 ・各学力テストの結果を基に、保護者会、個人面談で児童一人一人にあった課題等の共通理解を図る。

④体力向上

取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・体育部アプリやICTを活用し、グルーピングの方法、動画の使い方、振り返りの方法などを取り入れ、体育授業の改善と児童の体力向上を図る。 ・柔軟性を高めるために、準備運動、整理運動で使用部位のストレッチを必ず取り入れた授業計画を立てる。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・縄跳びカードやマラソンカードを活用し、継続的に体力向上を図る。 ・マイスクールスポーツの縄跳びとペースランニングを中心に児童が意欲的に体力向上を図ることができるように、年間指導計画を見直す。 ・外遊びを推奨し、遊びを通して体力向上を図ることができるように指導を行う。休み時間だけでなく、放課後にも遊ぶ時間を確保する。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
①学力基盤	国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章の中から指示語や接続語に着目させることで、文章の内容をしっかりと捉えることができた。 文章を読んだ感想を共有する学習を取り入れ、物語の登場人物の心情の捉えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 言語の活用がまだできていない。具体例を出して指導していく。 引き続き「文章を書くことが楽しい」と思う児童を育成するために、年間指導計画を立て、時間を確保する。その際、指定された段落数と長さで文章を書く練習を繰り返し行う。
	算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した宿題やはげみなどの時間をとり、児童は平行四辺形等の図形の特徴を捉えることができた。 夏休みにICTを用いた課題を提示し、個に応じた復習問題に取り組みさせることができた。 算数習熟度委員会を中心に、習熟度別の考え方や発表の仕方を全教員で確認し、それぞれの思考力・判断力・表現力が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリルの診断テストの結果にまだ課題がある。診断テストの結果を分析し、個別に指導が必要な児童に繰り返し丁寧に指導を行う。 与えられた情報を読み取り、規準量と割合から求めた比較量を比べる学習を取り入れる。また、それが正しいかを判断し、そのわけを説明できるようにする。
	社会	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書のQRコードなどにより、児童が視覚的に理解できた。 地図帳クイズをすることで地理に興味をもつ児童が多くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き資料を読み取るための視点や、自分の考えをまとめてワークシートに記入させ、考察を深めるための必要な手立てを指導する。
	理科	<ul style="list-style-type: none"> 問題→予想→実験・観察→結果→考察の授業の流れを徹底したことで、自分の考えを深めることができた。 写真や図、模型や映像資料を活用し、視覚的に捉えさせて理解を深めさせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> まだ学力調査で自然事象に関する項目に苦手意識がある児童が多い。宿泊行事や校外学習の中に、自然を観察する機会を設け、生命や自然に興味をもたせる。 考察の視点の提示を徹底して、全児童が自分の考えをかけられるようにする。
	英語	<ul style="list-style-type: none"> オーストラリアの中学生やミスインターナショナルの方々、マンダリンオリエントホテルの従業員との交流では既習事項を活用することができた。 6年では英語貯金として四線のノートに英単語や英文を書く活動を取り入れ、書く活動への不安が少なくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 書く活動の充実がまだ行われていない。3年生以上の学年の年間指導計画に書く活動を取り入れていく。
	体育・保健体育	<ul style="list-style-type: none"> マイスクールスポーツや外部講師による授業の年間指導計画を設定し、体力向上 	<ul style="list-style-type: none"> 準備運動や体づくり運動で柔軟性が高められる運動を取り入れる。

		<p>や基礎的な運動能力の向上ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部講師に指導していただき、児童の意識を高めることができた。 	
②授業改善		<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた課題を設定し、基礎的・基本的な学力が確実に身に付くように個別指導を充実させることができた。 各教科、領域で、課題解決型学習及び既習事項の活用を行う。 他教科との教科横断的な授業を行うことで、思考力・判断力・表現力が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決型学習及び既習事項の活用を行い、児童が課題を的確に捉え、解決に向けた手段や、自ら計画を立てられるような授業を行う。 授業の終わり、単元の終わりでは、学習の振り返りを確実にを行い、学習内容の系統性や繋がりを重視した授業計画を行う。
③家庭との連携		<ul style="list-style-type: none"> 学年、学級の学習の様子を、学年だより、学校公開、保護者会、個人面談、クラスルーム等の発信で知らせることができた。 各学力テストの結果を基に、保護者会、個人面談で児童一人一人にあった課題を知らせ、共通理解を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末の取り扱いや活用の仕方がまだ徹底することができていない。引き続き、保護者会や個人面談を通して学校教育に理解と協力を求めていく。 家庭学習については、その重要性について共通理解を図るとともに、家庭にも協力を求める。
④体力向上		<ul style="list-style-type: none"> マイスクールスポーツの縄跳びとペースランニングを中心に児童が意欲的に体力向上を図ることができるように、年間指導計画の見直しを行い、継続的に体力向上を図ることができた。 休み時間だけでなく、放課後にも遊ぶ時間を確保し、外遊びを推奨したため、遊びを通して体力向上を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用ができていない。グルーピングの方法、動画の使い方、振り返りの方法などをICTを取り入れ、体育授業の改善と児童の体力向上につなげる。 準備運動、整理運動で使用部位のストレッチを必ず取り入れた授業計画を立て、柔軟性を高める。